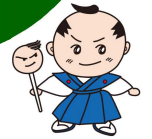




平成30年11月号



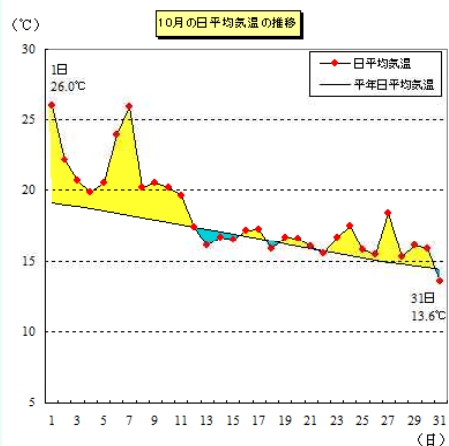
2回の台風と真夏日

10月1日に台風24号が本州を通過し、7日には25号が日本海を進みました。台風通過後は、暖かい空気が残り南西の風となったため、気温が上がり、最高気温が30℃をこえる真夏日を観測しました。10月に2回真夏日を記録するのは初めてのことです。

観測地点	10月1日		10月7日	
	最高気温	最高気温	最高気温	最高気温
日立市役所	33.9	12:14	32.4	13:07
十王交流センター	34.2	12:10	32.6	13:09
北部消防署	34.1	12:01	32.1	12:48
本山 (本山トンネル東側)	30.8	12:40	29.2	12:47
西部支所	32.2	12:41	30.8	12:15
諏訪スポーツ広場	32.6	11:38	31.3	11:44
南部支所	33.1	12:10	32.7	13:17

10月の気候

10月は、上旬に二つの台風がもたらした高温の影響もあり、平均気温が18・3度と10月としては4番目に高い気温となりました。一方で、弱い雨が降った日は多くなりましたが、まとまった雨は少なく、降水量は平年の30%の51ミリと少なくなりました。日照時間は、ほぼ平年並みの153・3時間でした。



1カ月予報 (気象庁発表)

11月は、平年と同様に晴れの日が多く、暖かい空気に覆われやすいため、期間の前半はかなり高い気温となり、月の平均は高く、降水量及び、日照時間は、ほぼ平年並みの見込みです。

天気相談所のあゆみ

天気相談所の歴史5
開設当初のようす

開設当初、市役所に3名、神峰山観測所に1名の要員で業務を行っていました。市役所においては、気象庁からきた山口所長と、もともと市役所にいた職員2名で、山口所長以外は、予報や観測など、全く知らない素人でした。そのため、観測については一から教えてもらい、徐々にできるようになっていったそうです。当時は、今以上に観測にも技術が必要で、すぐには行うことができなかったそうです。さらに知識や経験が必要な予報については、ほぼ山口所長がおこなっていたそうです。また、予報業務の中で重要なことのひとつに、警報・注意報の伝達というものがあります。当時は、警報が発表されると、気象台から電話があり、天気相談所が予報を提供している場所へ、さらに電話で伝えていました。職員が勤務している平日の昼間は天気相談所に連絡があり対応できるのですが、休日や夜中に発表された警報・注意報については、天気相談所が不在の際は、所長の家にかかるようになっており、所長や家族が対応を行っていたそうです。

天気に使う用語

気象庁の天気予報などで使う用語には定義があります。これは、言葉でも正確に情報を伝えられるようにするためです。天気相談所の予報についても、一部を除いて、この用語の定義にしたがっています。随時、このコーナーで紹介していきます

.....**神峰の山から**.....

開設当初のようすで、山口所長が夜中も含めて、ほぼ毎日対応していたとありましたが、天気相談所を運営し、市民の安全を守るといふ、責任感と義務感などが感じられるエピソードです。

よく、好きなことを仕事にできて良いねと言われます。その点はほんとに幸せなことですが、好きなだけではできないというのも実際の所です。以前、野球のイチロー選手のインタビューの中で、「人に好きなことを続けなさいとは言えない、続けるのは孤独で、たえず努力が必要であり、とてもしんどいから」という旨を言っており、恐れ多いですが、共感しました。

多かれ少なかれ、歴代の職員は、家族に負担をかけますが、協力和理解を得て仕事を行ってきました。支えてくれる家族にとっても感謝です。